

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 香川県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	三豊市立大見小学校 全校生 149名、保護者 100名、地域の方 10名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (人権講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピック選手から話を聞いたり、実際に競技する姿を見たりすることで、障がい者に対する理解を深め、偏見をなくする。 ○ パラリンピックスポーツに親しむ。
5 取組内容	○ オリンピック・パラリンピックの意義や歴史について、調べ学習をする。 ○ PTA 評議員会の折に副島正純選手の「夢に向かって」の DVD を視聴する。 ＜事前体験＞ ○ 6年生がリクシルによる義足体験を実施する。他学年はそれを見学することで意識を高める。   ＜講演＞ ○ パラリンピック卓球選手皆見信博氏を招いた講演会「人生と卓球」を全校生と保護者、地域の方で開催する。皆見選手と4年以上の代表児童でラリーを行う。



<事後指導>

- 皆見選手にお礼の手紙を書く。

皆見信博さん ありがとうございます。🌸

皆見信博さんの話を聞いて足が不自由
でも、あきらめずに努力をしたらあんな
に強くなれるんだなと思いました。
ほくもやりたいことが見つかったら
がんばってやっていきたいです。
ラリーは楽しかったです。



5年

皆見信博さん ありがとうございます。🌸

皆見さんが卓球をしている姿を見ると、体の
半分以上が不自由だとは、信じられませんでした。
中でもそこからのは、打ったら返って
くるサーブです。ほくも皆見さんのように
困難なことがあっても、努力してがんばり
たいと思います。



6年

6 主な成果	○ 義足体験では、間近で義足を見て、実際に山下選手の足に触ることもさせていただいた。義足を付けて歩くことで、大変さを知るとともに、義足を身近に感じることもでき、障害を持つ人を特別視することなく受け入れることができた。 ○ 講演会でパラリンピック選手から話を聞き、前向きに生きること、目標をもち悔いなく生きることなどを学びとることができた。 ○ 卓球選手であったことから、卓球にも興味を持つ児童が増えた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	○ 義足体験と講演会をセットにすることで、意識がたいへん高まった。 ○ 実物を見せていただいたり、実際に競技を見せていただいたりすることが理解を深めた。 ○ 全校的な活動にしたり、保護者や地域を巻き込むことで、より着実な取り組みとなった。
8主な課題等	○ 総合的な学習や体育の中に年度当初に位置付けることができていなかったため、学年ごとの実践が計画的に行えなかった。
9来年度以降 の実施予定	○ オリンピック・パラリンピックについて、関連図書をもとに学び、パラリンピック種目に挑戦する。